

平成25年度香川県麦づくり推進研修大会 資料

平成25年8月2日(金)

香川県農業再生協議会

平成25年度香川県麦づくり推進研修大会 次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 平成24年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

4. 研修内容

- (1) 「平成25年播き麦の生産拡大方策について」
(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 大山 興央)
- (2) 「平成25年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」
(香川県農業協同組合 営農部 農産課 課長 北岡 泰志)
- (3) 「麦の安定多収技術について」
(香川県 農政水産部 農業経営課 課長補佐 藤田 究)

5. 質疑応答

6. 大会宣言

7. 閉 会

「平成25年度香川県麦づくり推進研修大会」開催要領

1. 開催目的

本県産麦については実需者から高く評価されており、その需要に即した麦の生産拡大が図れるよう関係者が一丸となって推進している。特に小麦については、需要量に対する生産量が不足していることから、ますますの作付拡大と安定生産体制を強化していかなければならない。

そのような中、平成25年産麦の収量・品質結果が良かったこと、県オリジナル小麦「さぬきの夢2009」への全面切替とそれに関連した県補助事業および大豆・麦等生産体制緊急整備事業の実施など、平成25年播き麦作生産拡大に向けた気運が高まりを見せている。

そこで、県内の麦生産者等を対象に、県オリジナル小麦「さぬきの夢2009」等の安定多収技術や生産拡大に向けた支援措置等について情報提供を行い、麦類の生産拡大とともに、単収増や品質向上を目的とした研修会を開催する。

2. 日 時

平成25年8月2日（金）10：00～12：00（受付開始9：30）

3. 場 所

丸亀市綾歌総合文化会館「アイレックス」 大ホール
（住所：丸亀市綾歌町栗熊西1680番地 TEL：0877-86-6800）

4. 主催等

主催 香川県農業再生協議会

共催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、かがわ農産物流通消費推進協議会

5. 参集範囲

県内麦生産者・団体、県内実需者団体、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合、中国四国農政局高松地域センター、香川県農業会議、農業委員会、香川県農業協同組合、香川県農業協同組合中央会、香川県

6. 研修会内容

1) あいさつ

2) 平成24年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

3) 平成25年播き麦の生産拡大方策について（香川県農業生産流通課）

4) 平成25年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について

（香川県農業協同組合）

5) 麦の安定多収技術について（香川県農業経営課）

6) 大会宣言

7) その他

目 次

「平成25年播き麦の生産拡大方策について」	1
「平成25年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」	11
「麦の安定多収技術について」	19
大会宣言	31
平成24年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧	32

平成25年播き麦の生産拡大方策について

香川県 農政水産部 農業生産流通課

課長補佐 大山 興央

平成 25 年播き麦の生産拡大方策

香川県農政水産部農業生産流通課

1. 24年播き(25年産)麦の生産の状況と課題について

平成24年播き麦については、播種前までに生産者への作付意向調査を実施したところ、作付拡大意向があったことから、その後の推進活動の努力目標と合わせて250haの作付拡大を目指し作付推進を図った。

しかしながら、播種適期の11月中旬以降、断続的に降雨があったため、小麦を中心に播種時期が大幅に遅れるとともに、前年の遅播きによる単収減の経験から、計画していた条件が悪いほ地への作付は見送られることとなった。

その後、1、2月の低温により生育が抑制されたため、播種適期播きの麦については比較的順調に生育したが、遅播きとなった小麦を中心に生育が遅れるなど生育にバラツキが生じたが、2月下旬以降、気温上昇により生育遅れは回復した。

4月出穂期以降も好天が続いたため、平年並みの成熟を迎え、梅雨入り宣言は平年より早かったが、収穫時期についても晴天が続いたことから、収穫作業についても順調に行われ、播種したはだか麦、小麦のほぼ全作付面積が収穫できた。

収量においては、適期播種の励行(表2)と成熟期の好天候により、前年より2～3割多くなる見込である。

表1 24年播き麦の作付状況 (単位:ha)

区 分	24年播(25年産)	23年播(24年産)	増減 ②-①
	共済引受面積 (H25.7末) ①	共済引受面積 (確定) ②	
小麦	1,465	1,497	▲33
はだか麦	885	883	2
2麦種計	2,350	2,380	▲31

表2 麦の播種時期と単収について(22年～24年播の比較)

区 分	24年播(25年産)		23年播(24年産)		22年播(23年産)	
	11月末 進捗率	95% 完了時期	11月末 進捗率	95% 完了時期	11月末 進捗率	95% 完了時期
小麦	81 %	12月下旬	67 %	12月下旬	81 %	12月上旬
単収	370 kg/10a(推定)		278 kg/10a		333 kg/10a	
はだか麦	89 %	12月上旬	78 %	12月中旬	87 %	12月中旬
単収	370 kg/10a(推定)		280 kg/10a		311 kg/10a	

2. 需要動向に関する情報

第15回香川県麦民間流通地方連絡協議会での購入希望数量は示されていないが、実需者等からの聞き取りから推察すると、

はだか麦については、本県産イチバンボシは、実需者からは一定評価されているものの、比較的安価で安定的に流通している二条大麦への需要転換が進んでいることや、25年産の生産量が多かったことから県産はだか麦は供給過剰による入札価格の下落が懸念される。そのため、現状程度の作付維持に努めることとする。

小麦については、25年産入札結果において、国産小麦全体として前年に対して下落傾向であったのに対して、本県産小麦「さぬきの夢2009」は、購入希望数量が毎年増加し続けていることから、入札基準価格に対する値上げ幅上限で、日本麺用小麦として最高値を維持しつづけている。25年産生産量については24年産生産量よりも多い結果となったが、今後も販売(生産)予定数量に対し、購入希望数量が大きく上回る事が予想され、実需者からは、需要に応じた生産拡大(作付面積増、生産量増)を強く求められている。

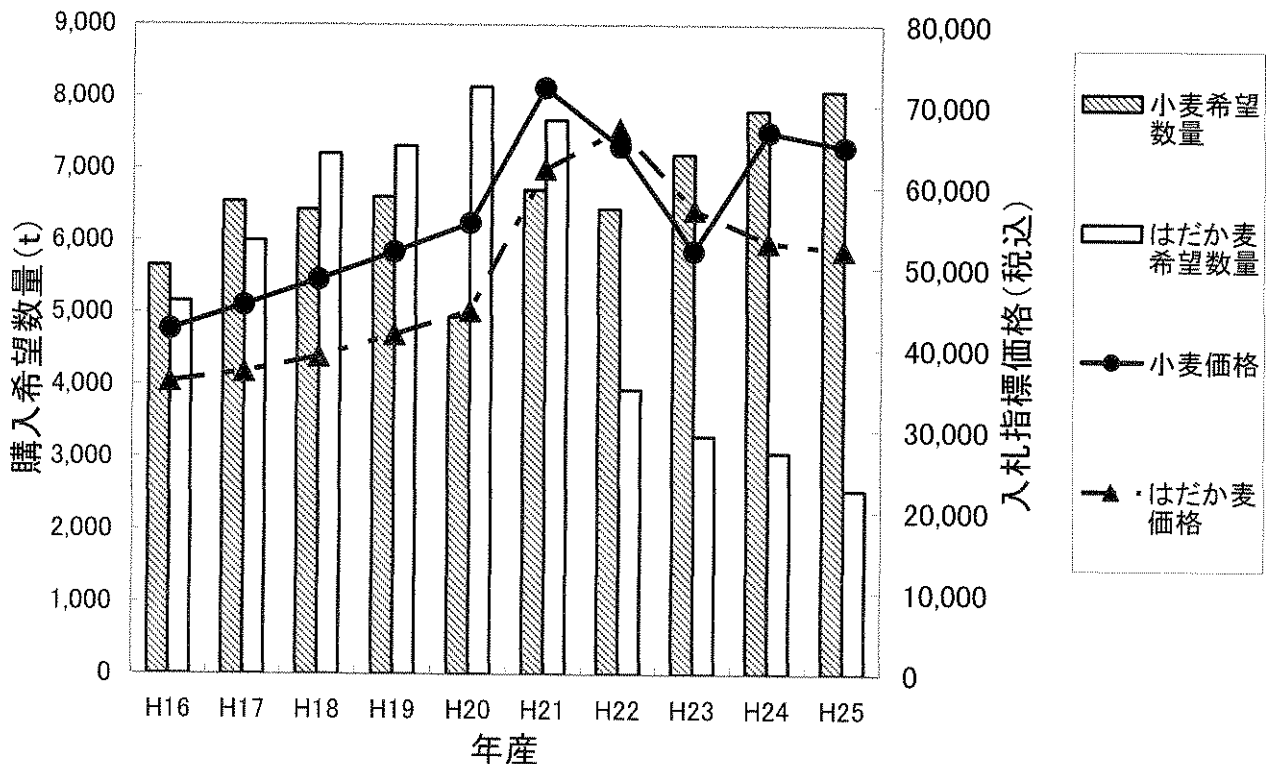


図1 香川県産民間流通麦の購入希望数量と入札価格の暦年推移
 出所) 社団法人 全国米麦改良協会、香川県麦民間流通地方連絡協議会
 注意) 小麦の入札基準価格は入札前の外国産小麦の売渡価格により変動する。

3. 25年播き(26年産)麦の生産拡大目標の設定

24年播き麦は豊作基調であり、作付拡大への期待が高まっている。そこで、安定需要量の範囲内で平成25年播き麦の生産目標(数量)の設定を行った。

小麦については、単年度での購入希望数量の確保は困難であるものの、その希望数量に段階的かつ着実に近づけるよう、25年播麦の生産目標は、収量性の高い「さぬきの夢 2009」の特徴を活かして、25年産生産量見込5,400tを確保すべき生産量として設定し、面積拡大とともに単収向上に向けた取組みを強化する。

また、はだか麦の生産目標については、需給状況を満たしているため、現状維持の850haとして設定した。

表3 25年播き(26年産)麦の生産量の目標 (単位：t、ha)

区分	25年産実績(見込)		26年産目標		拡大 生産量 B-A	<参考> 27年産目標 生産量
	生産量 A	共済引受 面積	生産量 B	目標面積		
小麦	5,400	1,465	6,400	1,780	1,000	8,300
はだか麦	3,270	885	2,600	850	▲720	-
2麦種計	8,670	2,350	-	2,630	-	-

※目標面積は25年産の県平均単収(小麦:307kg/10a、はだか麦 304kg/10a)より算出した。

表4 25年播き(26年産)小麦の地域別生産目標 (単位：t、ha)

地域	生産量の目標と単収向上効果		作付面積 (ha)		
	最低確保水準A = ②×307kg/10a	増産目標水準B = ②×360kg/10a	25年産 ①	26年産 目標②	拡大③ = ②-①
大川	620	730	160	203	43
中央	2,290	2,690	627	747	120
綾坂	840	985	224	274	50
仲多度	1,100	1,295	298	360	62
三豊・豊南	600	700	156	196	40
県計	5,450	6,400	1,465	1,780	315

4. 25年播き麦の作付推進に向けた重点的な取組み

1) 農業経営への麦作の取り入れ提案

全面切替が完了した「さぬきの夢2009」については、「さぬきの夢 2000」に比べて収量性が高いことを活かし、安定的な単収増による収益性の改善が期待できる。このため、適期播種を柱とした基本技術の励行を進めるとともに、地域事情に即した施肥方法を工夫することで今後さらなる単収向上に努めることとする。

表5 経営所得安定対策による麦の収益性(10a)試算例 (単位:円)

区 分		小 麦			はだか麦
		単収:307kg	単収:360kg	単収:420kg	単収:304kg
販売金額(品代)		19,939	23,382	27,279	15,949
経営所得安定対策	畑作物の直接支払 (数量払い)	30,444	35,700	41,650	40,108
	水田活用の直接支払 (水田裏の場合)	35,000 (15,000)	35,000 (15,000)	35,000 (15,000)	35,000 (15,000)
	産地資金: 麦担い手集積加算	3,000	3,000	3,000	3,000
収入合計 ①		88,384	97,082	106,929	94,057
収入合計(水田裏作の場合)①'		(68,384)	(77,082)	(86,929)	(74,057)
経費 ②		35,363	35,363	35,363	41,132
所得:①-②		53,021	61,749	71,566	52,925
所得:(水田裏作の場合)①'-②		(33,021)	(41,749)	(51,566)	(32,925)

- 小麦単収 307kg、はだか麦単収 304kg は 18～24 年産(7中5)平均
- 販売代金は平成 25 年産落札指標価格(税別)から算出
小麦「さぬきの夢 2009」:64,949 円、はだか麦「イチバンボシ」52,293 円/t
- 数量払いの単価は、小麦1等Bランク はだか麦1等Aランク
小麦 5,950 円/60kg はだか麦 7,890 円/60kg
- 経費については全算入生産費から家族労働費、自作地地代、自己資本利子を控除
(小麦は香川県統計値:17～23 年産7中5平均、はだか麦は 14～16 年平均)
- 産地資金は平成 25 年産の単価にて算出した。

2)担い手の経営形態に応じた生産拡大について

作付目標の実現に向け、24 年、25 年の作付状況推移(表6)や昨年までの作付意向調査結果を担い手ごとに分析し、その実態に即した取組を重点的に推進する。

表6 農業共済引受にみる平成25年産と24年産の比較

	25 年産			24 年産		
	面積	シェア%	経営体数	面積	シェア%	経営体数
認定農業者	888	38	163	937	39	167
集落営農	347	15	41	305	13	34
1・1	967	41	67	1025	41	68
小規模	142	6	188	113	5	134
計	2344	100	459	2380	100	403

① 認定農業者 → **安定生産に向けた生産体制の強化を支援**

認定農業者は、迅速に生産拡大の意思決定ができ、即効的な拡大実績が見込まれ、本県麦作面積の約40%を担う存在である。大規模生産者については、播種作業の遅れによる収量性の低下を防ぐために、計画的な適期播種、基本技術励行を推進するとともに、計画的な作業が行えるよう機械装備の面からも各種支援措置の活用を提案し、生産性の向上を推進する。

活用施策:5の1)、2)、3)

② 集落営農組織・営農集団 → **米麦二毛作体系による面積拡大を支援**

集落営農組織・営農集団は、単一又は数集落程度の地縁的な範囲が基盤となるため、冬期不作付地の集積等による集団的な農地の有効活用を通して、本県麦作面積におけるシェアが増加傾向にある。

土地利用型作物の重要な担い手として、経営の柱に米麦二毛作体系が位置づけられるよう、香川県集落営農・農地活用推進プロジェクトチームで選定された重点推進地区を中心に、オペレーターの確保や麦作機械の共同利用への誘導により、生産体制の強化と作付拡大を推進する。

活用施策:5の1)、3)、4)、5)

③ 1支店1農場組織 → **組織再編に向けた重点集落に対する麦作誘導**

1支店1農場組織の再編に向けた具体策として、JA 香川県が各組織ごとに重点集落を選定し、作業班による共同作業の推進など組織化と生産体制の強化を進めることとしており。これら重点集落において小麦を中心とした生産拡大を促進する。

活用施策:5の1)、3)、4)、5)

④ 小規模農業者 → **集落営農組織、重点集落活動への誘導を支援**

農業者戸別所得補償制度により、小規模農業者の作付割合が増加しており、今後の制度の見直し状況を注視しながら、農業機械を所有している兼業農家や定年退職者などに、米麦二毛作による経営メリットについて説明を行い、麦の新規作付けを促進する。また、集団的な麦の作付けを推進するため、集落営農への参画を促す。

活用施策:5の3)

5. 麦づくりを支える各種施策の概要

1) 「さぬきの夢」大規模作付推進事業(新規:県農業生産流通課)

県育成品種「さぬきの夢2009」需要の早期確保に向けて安定的な生産を促すため、小麦を10ha を超えて作付けする担い手に対して、10ha を超える作付面積に応じて作付拡大に要する経費の一部としてを JA と共同で助成する。

【補助率】 定額(県補助 2,250 円/10a、JA 上乗せ 1,250 円/10a)

2) 力強い水田農業条件整備事業のうち、整備事業(県農業生産流通課)

認定農業者や営農組織等を対象に、麦の生産拡大や生産性(収量・品質)の向上に必要な営農用機械などの整備に対して支援する。

【補助率】 30%以内

【補助対象の営農用機械】 乗用トラクター、コンバインなど

3) 大豆・麦等生産体制緊急整備事業(新規:香川県農業再生協議会)

本事業は、農林水産省の平成 24 年度補正予算により、香川県農業再生協議会に造成した基金を活用し、香川県内での麦や大豆の生産拡大を図る取組として行う。

ア) 県協議会、地域協議会による取り組み

県協議会や地域協議会が自ら行う取り組みとして、県域課題、地域課題の解決に向けた取組を行う。

例) 栽培技術の実証ほ設置、土壌調査と土壌改良にかかる検討、地域毎の栽培研修会・実演会の実施など。

イ) 取組参加者の公募事業

麦・大豆の生産拡大、品質向上に必要な農業機械等の購入、リースにかかる助成事業について、取組参加者を公募する。

特に、農業機械のリース導入については、従来の国補事業と比較して、助成対象となる機械種類が多いことから、本事業を活用して、逆転ロータリーや溝堀機など麦生産者の機械装備の強化を支援する。

【公募締切】8月20日(火)、【受付窓口】各地域農業再生協議会

※事業詳細は、「さぬき水田営農だより」特別号(7月1日発行)参照。

4) 地域を支える集落営農推進強化事業(新規:県農業経営課)

集落での話し合い活動を通じ組織化に向けた合意形成や農業機械等の導入による低コスト化などの「集落営農」への取組を支援する。

①集落営農組織設立支援事業

集落営農立ち上げに向けた自主的な活動を支援

②農地集積促進事業

集落営農の組織化、規模拡大化を促すための農地集積を支援

③農業機械導入支援事業

農業機械の効率的な利用促進のための機械整備を支援
など。

※事業詳細は、別紙パンフレット参照。

5) 集落営農推進生産基盤整備事業(新規:県土地改良課)

集落営農の組織化・強化を推進するために必要な農地の集積や有効利用等の促進効果が大きい農業生産基盤整備を実施する。

【補助率】60%以内、【事業実施主体】市町

【補助対象工種】暗渠排水、ほ場整備、パイプライン化

お詫び

「さぬき水田當農だより（特別号）7月1日発行」について
下記の4点に誤りがありました。
ここに修正してお詫びいたします。

(1) 5ページ(表3) 「乗用型多目的作業機」の項目
(誤) 薬液吐き出し量 → (正) 薬液吐き出し量

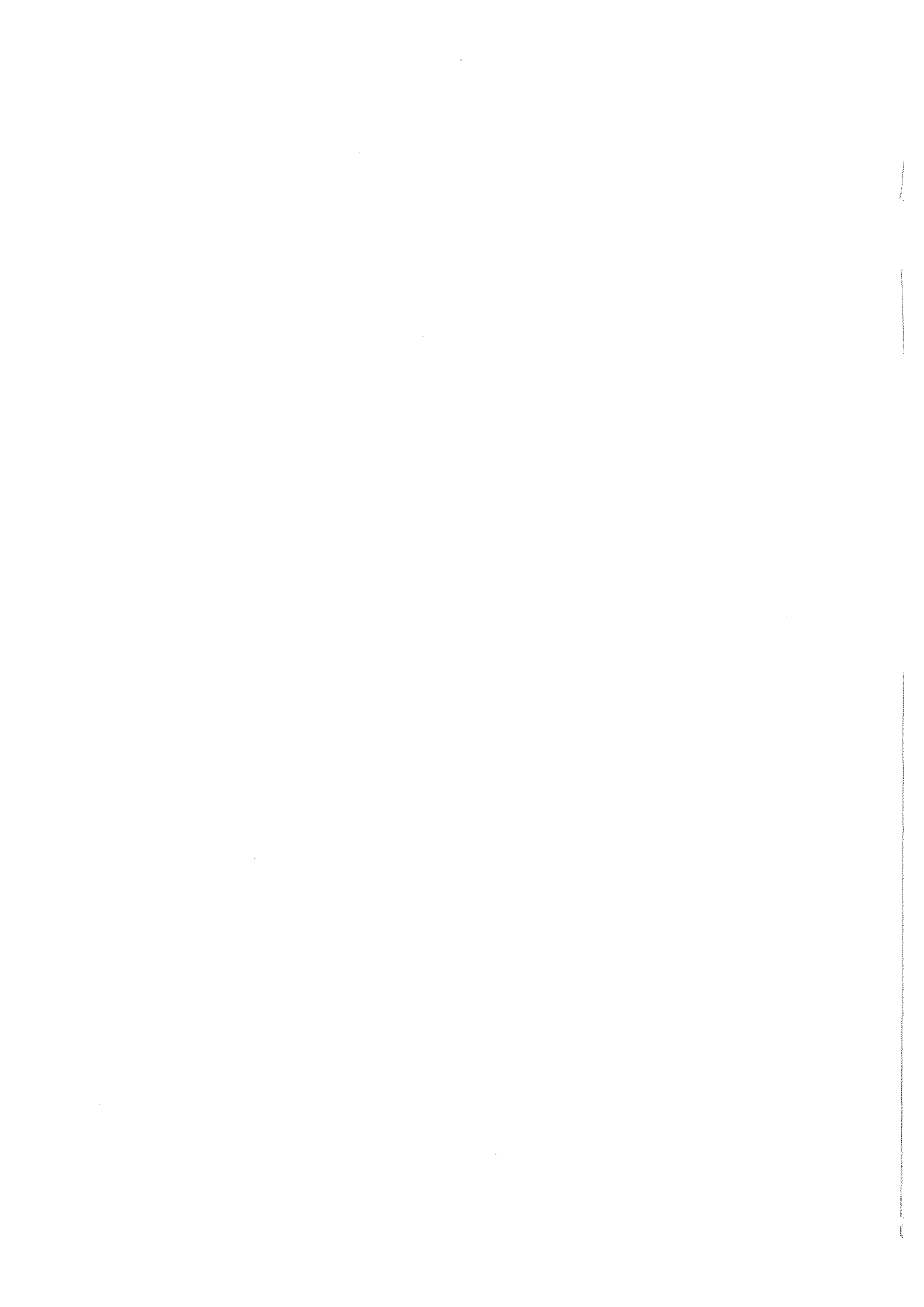
(2) 5ページ(表3) 「コンバイン 普通型」の項目
(誤) → (正)

刃幅0.8-2.5m	<u>10.0</u> (麦作)
刃幅0.8-2.5m	<u>9.8</u> (大豆作)

刃幅0.8-2.5m	<u>9.8</u> (麦作)
刃幅0.8-2.5m	<u>10.0</u> (大豆作)

(3) 7ページ 「<<申請に必要な資料等>>」の項目6行目
(誤) 「取組報告書兼助成金交付申請書」
→ (正) 「取組報告書兼助成金請求書」

(4) 7ページ(表4) 「琴平町地域農業再生協議会」の項目
(誤) 所在地、電話 JA香川県琴平支店内(水田部会)
→ (正) 所在地 仲多度郡琴平町榎井817-10 琴平町 農政課内
電話 0877-75-6709



平成25年播き麦の需給動向及び
生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合 営農部 農産課

課長 北岡 泰志

平成25年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合
営農部農産課

1. 平成24年産の販売状況

7月25日現在の3麦合せた販売実績は、3,807トン（販売進捗59.6%）で、販売進捗は前年を2.4ポイント上回っています。

小麦については、前年並みとなっていますが、価格の事後調整により25年4月から値上がりしたため、直前の3月に仮需要が発生したことが背景で多少販売進捗が鈍化していると思われます。

一方、はだか麦については、一定の品質評価をされていますが、安定供給が出来なかったことから安価で安定的に流通している国産二条大麦（不作時は外国産で代替可）に需要転換が進んだことにより需要が低迷し、販売進捗が鈍化していると思われます。

（表1）平成24年産民間流通麦の販売状況（7月25日現在）

（単位：トン、%）

麦種	契約数量 ①	販売実績 ②	販売進捗 ③=②/①	前年販売 実績 ④	前年同期 進捗 ⑤	販売実績対比 ②-④=⑥	販売進捗対比 ③-⑤=⑦
さめきの夢2000	2,060.8	1,655.3	80.3%	3,491.4	76.1%	▲1,836.1	+4.2%
さめきの夢2009	1,879.4	1,442.1	76.7%	364.6	85.2%	+1,077.5	▲8.5%
（小麦計）	3,940.2	3,097.4	78.6%	3,856.0	76.9%	▲758.6	+1.7%
イチバンボシ	2,441.9	709.5	29.1%	532.9	21.8%	+176.6	+7.3%
3麦合計	6,382.1	3,806.9	59.6%	4,388.9	57.2%	▲582.0	+2.4%

（注1）ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

2. 平成25年産の需給情勢と作柄状況

（1）需給情勢について

（表2）平成25年産の販売予定数量と購入希望数量について

（単位：トン、%）

麦種	25年産		ミスマッチ数量 ②-①	希望比率 ②/①
	希望購入数量①	販売（生産）予定 数量②		
さめきの夢2009	8,061	(5,400)	(▲2,661)	67.0%
イチバンボシ	2,550	(3,270)	(+720)	128.2%
2麦計	10,611	(8,670)	(▲1,941)	81.7%

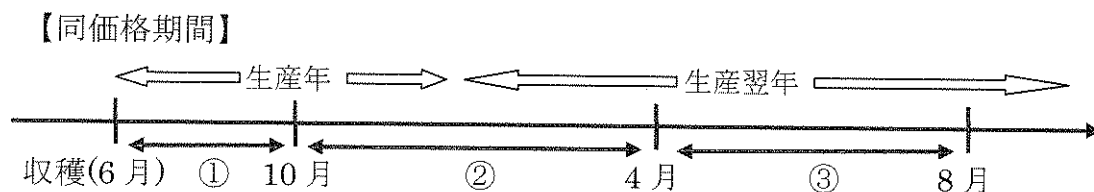
※（ ）内は検査実績未確定につき見込み数値

①小麦「さぬきの夢2009」

25年産の入札価格について、国産小麦全体では前年に比べて下落傾向であったが、「さぬきの夢2009」は、入札基準価格に対する値幅上限に張り付き、日本麵用小麦として最高値を維持しています。これは、購入希望数量が毎年増加するほど需要が伸びており、今後も生産数量に対し、購入希望数量が大きく上回る事が予想され、実需者から生産拡大を強く求められています。

また、近年の外国産小麦の国際相場の乱高下に鑑み、播種前契約制度下における製粉業界のリスク回避を図るため、23年産小麦より民間流通制度の改正により播種前価格の事後調整が導入されました。輸入小麦5銘柄による政府売渡価格の変動に応じて国内産小麦価格は、年2回（4月、10月）改定され、本県産小麦の受渡期間が生産年6月から生産翌年8月であることから、3回価格変動されます。

外国産小麦価格の高値推移から25年4～9月の事後調整後の価格は播種前入札価格比109.7%と大幅に値上げされ、6月の小麦製品の値上げに繋がっています。10月以降の価格も為替レート等により、やや値上げ基調ではないかと見られています。



24年産小麦の事後調整後の価格推移（実績）

（単位：円/トン（税抜））

播種前価格/販売期間	24/6～24/9	24/10～25/3	25/4～25/8
63,612	54,706 (86.0%)	56,233 (88.4%)	61,704 (97.0%)

25年産小麦の事後調整後の価格推移（予測）

（単位：円/トン（税抜））

播種前価格/販売期間	25/6～24/9	25/10～26/3	26/4～26/8
61,856	67,856 (109.7%)	67,856 + α	67,856 + $\alpha \pm ?$

②はだか麦「イチバンボシ」

これまでは、品質的にも精麦業界の高い評価を受け、価格的にも他県産と比べ優位性が保たれてきたものの、近年では安定供給に欠けるとのことから安価で安定流通が図れる二条大麦への転換が進むとともに、価格も他県産に近づく結果となっています。

25年産の九州産二条大麦の作柄不良が伝えられていますが、外国産二条大麦での代替による数量確保をしている状況です。今後、26年産播種前入札では、国内産二条大麦は値上げ基調となり、はだか麦との価格差が縮小されると見られています。

はだか麦の販売価格の推移

（単位：円/トン（税抜））

相対基準価格	22年産	23年産	24年産	25年産
香川県①	63,979	54,487	50,648	49,803
全国平均②	58,580	50,277	49,472	49,804
①÷②	109.2%	108.4%	102.5%	99.9%

(2) 25年産麦の作柄状況

播種適期である11月中旬以降、断続的に降雨があったため、排水性の悪い圃場では播種が遅れ、12月下旬頃まで播種された圃場が多くありました。

その後、1月から2月の低温により生育が抑制されたため、播種適期播きの麦については比較的順調に生育したが、遅播きとなった小麦を中心に生育が遅れるなどバラツキが生じたが、2月下旬以降、気温上昇により生育は回復しました。

4月の出穂期以降も好天が続き、平年並みの成熟を迎え、梅雨入りも平年より早かったが収穫時期も晴天が続いたため順調に収穫できましたが、5月の高温少雨のため、一部焼け熟れ等による歩留りの低下が見られました。

しかし、収量については、適期播種の励行と収穫期の好天候により、平年単収を大きく上回り、品質も良い結果となり、小麦では1等比率94%、はだか麦では99%と昨年に続き高品質麦が収穫できました。

(表3) 平成25年産麦の契約と集荷状況

(単位：ha、トン)

年産	麦種	播種前契約時		実績(注1)		数量比	1等比率
		面積	契約数量	面積	集荷数量		
25	夢2009	1,550	5,115	1,440	(5,400)	(105.6%)	94%
	イチバンボシ	800	2,400	850	(3,270)	(136.3%)	99%
	計	2,350	7,515	2,290	(8,670)	(115.4%)	96%
24	夢2000	1,050	3,500	789	2,061	58.9%	93%
	夢2009	500	1,800	651	1,879	104.4%	95%
	イチバンボシ	850	2,700	840	2,442	90.4%	97%
	計	2,400	8,000	2,280	6,382	79.8%	95%
23	夢2000	1,383	4,980	1,431	4,589	92.1%	48%
	夢2009	100	360	116	428	118.9%	0%
	イチバンボシ	800	2,880	856	2,662	92.4%	32%
	計	2,283	8,220	2,403	7,679	93.4%	40%
22	夢2000	1,570	5,690	1,459	3,280	57.6%	50%
	夢2009	30	110	23	68	61.8%	57%
	イチバンボシ	750	2,700	803	2,299	85.1%	58%
	計	2,350	8,500	2,285	5,647	66.4%	54%
21	夢2000	1,550	5,700	1,482	3,162	55.5%	94%
	イチバンボシ	650	2,400	642	1,451	60.5%	90%
	計	2,200	8,100	2,124	4,613	57.0%	94%

(注1) 面積は、採種圃場を除く農業共済引受面積である。

(注2) 25年産の()内は見込み数値である。

3. 平成26年産（25年播き）麦の作付拡大目標面積

平成26年産の作付拡大目標については、需要に応じた生産量の拡大を基本とし、面積拡大と単収向上の両面から目標数値を算出しました。

小麦については、単年度での購入希望数量の確保は困難ですが、段階的かつ着実に近づくよう各種施策を重点的に実施します。

はだか麦については、需給が均衡していますので、現状維持の生産面積とします。今後、需要拡大に向けた販路開拓を実需者と一体となり実践します。

(表4) 26年産（25年播き）麦の生産量の目標

(単位：t、ha)

区分	25年産実績（見込）		26年産目標		拡大生産量 B-A	<参考> 27年産目標 生産量
	生産量 A	共済引受 面積	生産量 B	目標面積		
小麦	5,400	1,465	6,400	1,780	1,000	8,300
はだか麦	3,270	885	2,600	850	▲670	-
2麦種計	8,670	2,350	-	2,630	-	-

※目標面積は25年産の県平均単収(小麦:307kg/10a、はだか麦 304kg/10a)より算出した。

(表5) 26年産（25年播き）小麦の地域別生産目標

(単位：t、ha)

地域	生産量の目標と単収向上効果（t）		作付面積（ha）		
	最低確保水準A=② ×307kg/10a	増産目標水準B=② ×360kg/10a	25年産①	26年産 目標②	拡大③= ②-①
大川	620	730	160	203	43
中央	2,290	2,690	627	747	120
綾坂	840	985	224	274	50
仲多度	1,100	1,295	298	360	62
三豊	600	700	156	196	40
県計	5,450	6,400	1,465	1,780	315

25年産麦は豊作基調で、適期播種や収穫時期の好天候の結果であったと考えます。天候等に左右されず、安定生産をするためには、適期播種や適期収穫をするための排水対策や基本栽培管理の励行が重要となります。面積拡大とともに単収向上に向けた取り組みを強化します。

特に1・1法人、団体においては、集落を単位とした細分化、スリム化を前提とした再編整備を実施することが概ね組織合意されています。農地集積や大型機械の導入による共同利用や協業作業など、耕作放棄地の増加に繋がらないよう、麦作を契機とした地域別モデル地区の選定を行い、生産基盤づくりを推進します。

4. 平成26年産（25年播き）の生産拡大に向けた取組方針について

平成23年度より「農業者戸別所得補償制度」が本格実施となり、畑作物の所得補償交付金が導入され、数量払による品質評価が定着し、25年度も「経営所得安定対策」と名称を変更して麦関連の施策は継続されています。実需者ニーズに即した麦づくりとして、異常とも言われる近年の気象条件下においても安定した収量・品質の確保を目指した基本技術の励行と適期播種・排水対策等の技術力の高い栽培管理方法の普及定着を図る必要があります。

性急な面積拡大が困難な本県農業構造を踏まえ、生産現場の意見集約を行い、単収向上に有効かつ必要とされる適期播種、排水対策等を重点に支援メニューの充実化を図るなど、経営体に合わせた支援体制の整備・構築を図ることを推進します。

支援施策等の内容	対象経営体
<p>(1) 「さぬきの夢」大規模作付推進事業（県・JA）</p> <p>①（県単事業） 助成対象面積：年内に播種された小麦のうち10haを超える部分（ただし、採種ほ場面積は除く） 助成額：3,500円/10a以内の定額助成</p> <p>②（JA営農振興対策事業） 助成対象面積：25年産小麦播種面積以上の面積を維持し、年内に播種された小麦のうち10haを超える部分（ただし、採種ほ場面積は除く） 助成額：3,500円/10a以内の定額助成</p>	<p>(1)</p> <p>①認定農業者（集落営農法人、1・1法人含む）</p> <p>②1支店1農場組織（未法人化の特定農業団体）</p>
<p>(2) 大豆・麦等生産体制緊急整備事業による麦関連農業機械等のリース導入、購入助成事業 公募締切：平成25年8月20日（火）、受付窓口：各地域農業再生協議会 ※事業の詳細は、「さぬき水田営農だより」特別号（7月1日発行）参照</p>	<p>(2) 麦作生産者</p>
<p>(3) 麦播種機のレンタル（貸出）事業（JA） 播種機または乗用トラクターセットでの貸出事業を検討 ※別途、詳細決定後、利用内容等を周知</p>	<p>(3) 1支店1農場組織（法人含む）の構成員、小規模生産者</p>
<p>(4) 播種前排水対策支援事業（JA） サブソイラー（弾丸暗渠セット）による播種前排水対策フィールド作業支援を検討 ※別途、詳細決定後、利用内容等を周知</p>	<p>(4) 麦生産者</p>

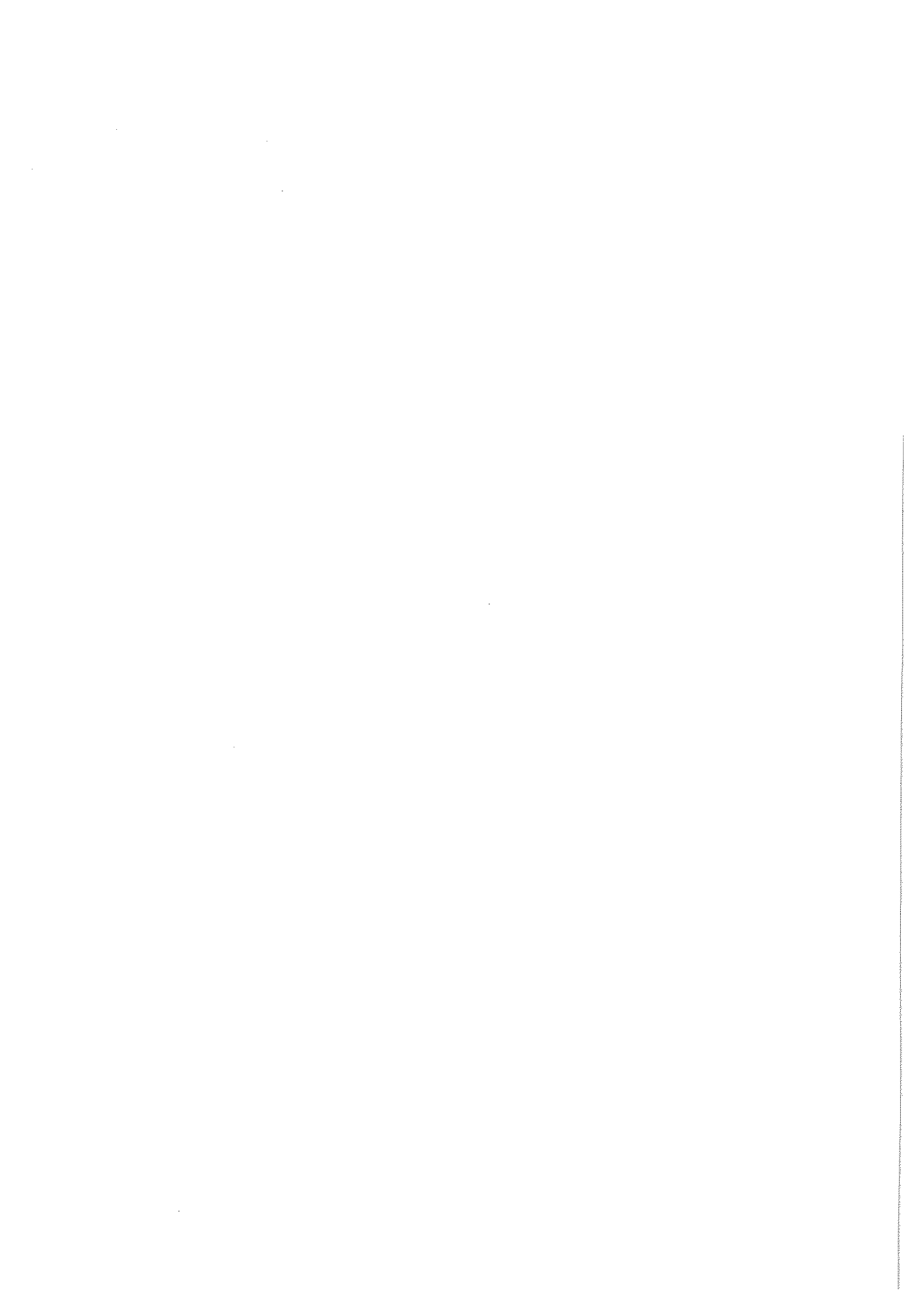
5. 平成25年播き香川県麦作拡大コンクールの実施

本日、平成24年播き香川県麦作拡大コンクールの表彰を実施しましたが、来年度においても平成25年播き香川県麦作拡大コンクールの実施を予定しています。このコンクールは、麦類の作付面積の拡大や新規生産者の推進、栽培管理技術の徹底による単収・品質向上を図り、需要に応じた生産数量の確保に努めるとともに、本県土地利用型農業の発展に寄与した担い手を表彰し、その成績を広く紹介することによって、本県麦作の更なる発展を図ることを目的に開催いたします。

平成25年播きについては、昨年播きより県下全面切替した「さぬきの夢2009」の生産拡大における作付面積拡大や単収・品質向上に向けた取り組みについても重要な審査項目と考えています。参加資格や開催内容については、別途ご周知いたしますので、奮ってご応募ください。

6. 今後の麦作推進スケジュール（予定）

- 7月 ・全国麦民間流通連絡協議会の開催（7/24）
26年産麦の取引ルール決定
- 8月 ・香川県麦づくり推進研修会の開催（8/2）
・香川県麦民間流通地方連絡協議会の開催（8/下旬～9/月上旬）
実需者と生産者団体との需給調整協議
- 9月 ・各地区別麦作推進大会の開催
- 10月 ・26年産民間流通麦入札（26年産麦の価格決定）
・栽培講習会の開催
- 11月 ・播種開始
- 12月 ・相対契約締結完了…入札以外の数量（相対）契約



麦の安定多収技術について

香川県 農政水産部 農業経営課

課長補佐 藤田 究

平成25年度 香川県麦づくり推進研修大会

麦の安定多収技術について

香川県農政水産部農業経営課
農業革新支援グループ
藤田 究

はじめに

香川県産麦は実需者から生産量の確保・増大が求められています。

麦増産に向けた方向性

作付面積の拡大

- ・集落営農を契機とした麦作への取組
- ・新規作付農家の掘り起こし

単収の向上

- ・基本技術の励行
- ・新技術の導入

麦づくりに重要なこと

① 適期播種

できるだけ早く播き終える。

播種適期：11月15日～25日

② 適切な肥培管理

③ 排水対策

④ 雑草対策

小麦「さぬきの夢2009」の品種特性 にあわせた基肥一発肥料

従来型の小麦用基肥一発肥料

(窒素成分のうち)

速効性肥料80%

30日タイプ緩効性肥料20%

穂数型の
夢2000に
適する



さぬきの夢2000



改良型の小麦用基肥一発肥料

速効性肥料60%

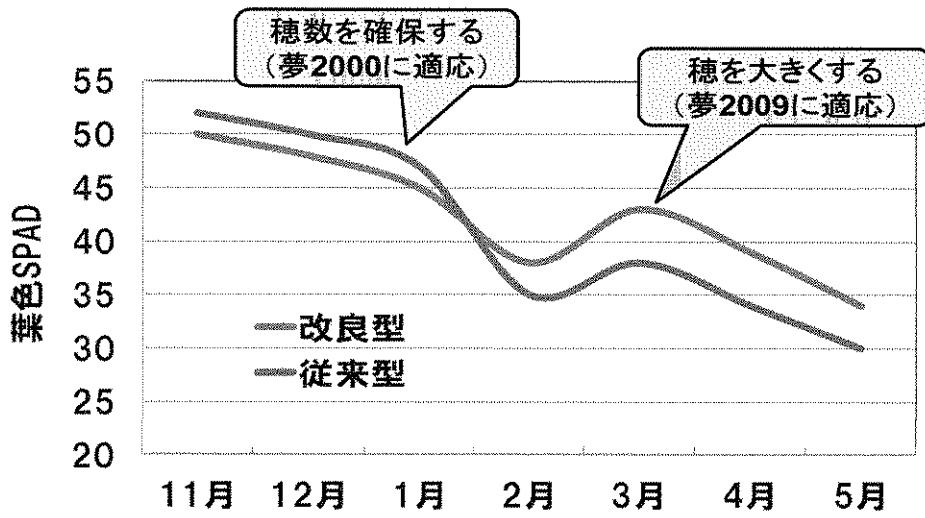
30日タイプ緩効性肥料40%

穂重型の
夢2009に
適する



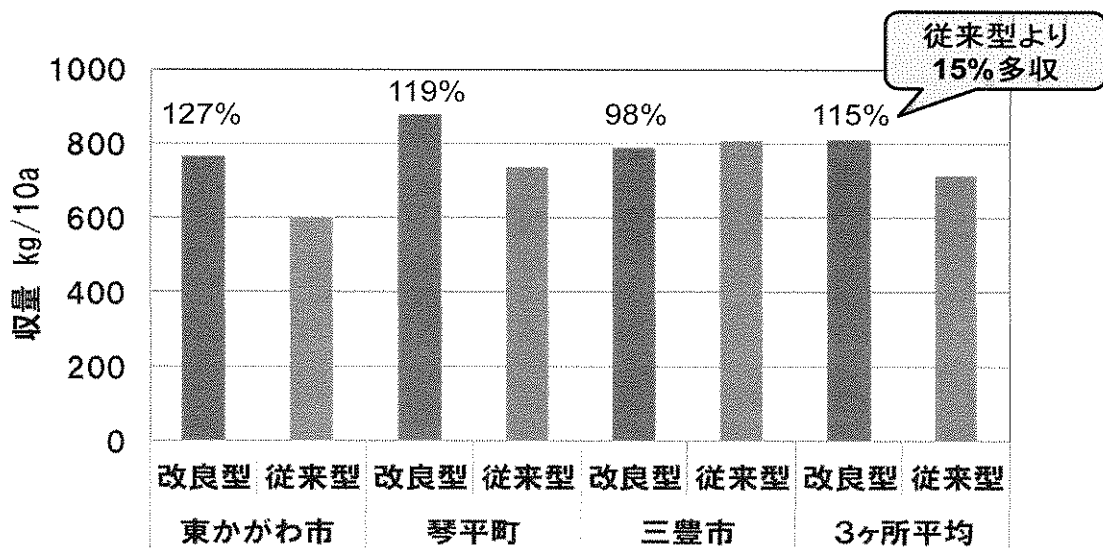
さぬきの夢2009

基肥一発肥料の肥効イメージ



改良型と従来型の葉色の推移の比較

改良型と従来型の基肥一発肥料の収量の比較 —普及センターによる施肥改善展示ほ成績(平成24年播)—



排水対策

①播種前の排水対策

本暗渠、弾丸暗渠、明渠の設置

②播種後の排水対策

ほ場周囲にヨケを設置

排水溝を落水口まで確実に連結する。

③生育中の排水対策

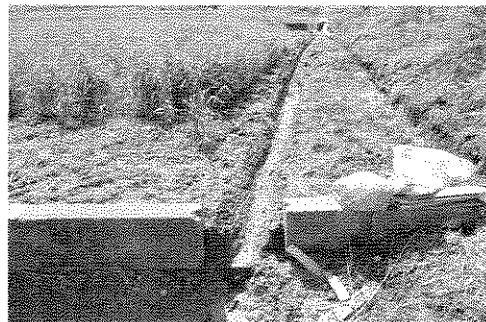
土入れ

排水溝の整備

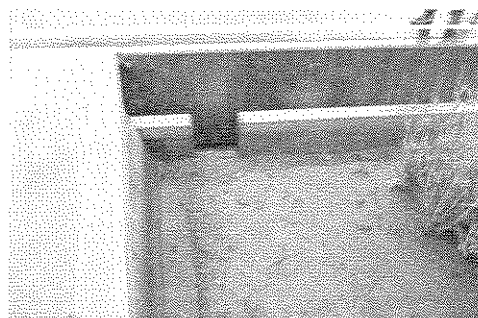
排水対策の事例紹介



畦の溝と排水口へ溝を連結



ヨケからの水を排水口へ



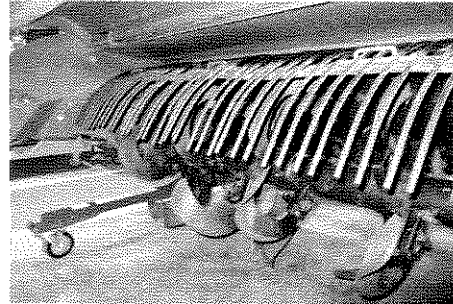
落水口まで水を誘導



水田からの水をヨケで防止

逆転耕畦立てドリル播栽培とは？

改良型アップカットロータリにより逆転耕を行って畦を立てながらドリル播種をする栽培法

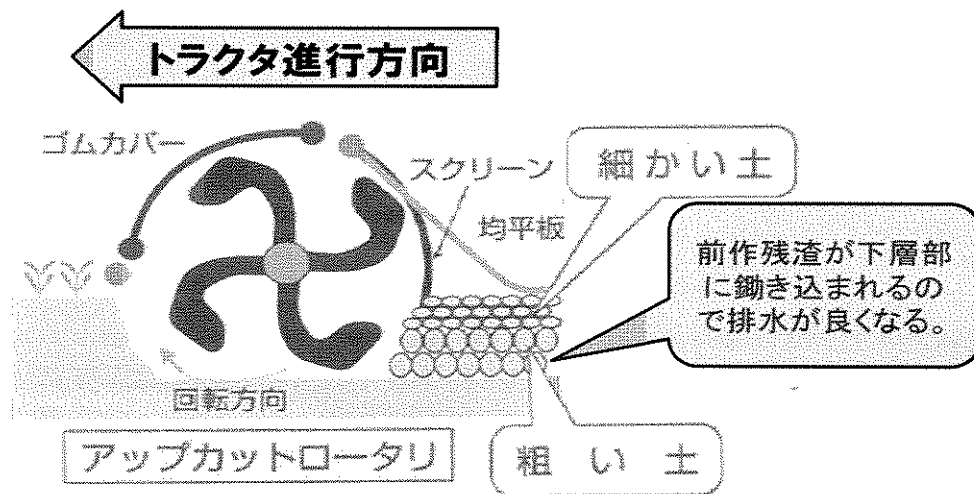


※前提条件として、改良型アップカットロータリに見合う馬力のトラクタが必要となる。
(作業幅1.8mの場合、40～50馬力程度)

逆転耕畦立てドリル播栽培の特長

- ① 碎土が良いので、苗立ちが良好
→ 事前耕起しなくてもよい。
- ② 土壌水分がやや高くても播種可能となる。
→ 播種作業の稼働日数が長くなる。
- ③ 前作残渣の鋤き込み性能が優れる。
- ④ 畦が高く、排水性が良い。
- ⑤ 多収となる。

改良型アップカットロータリの原理

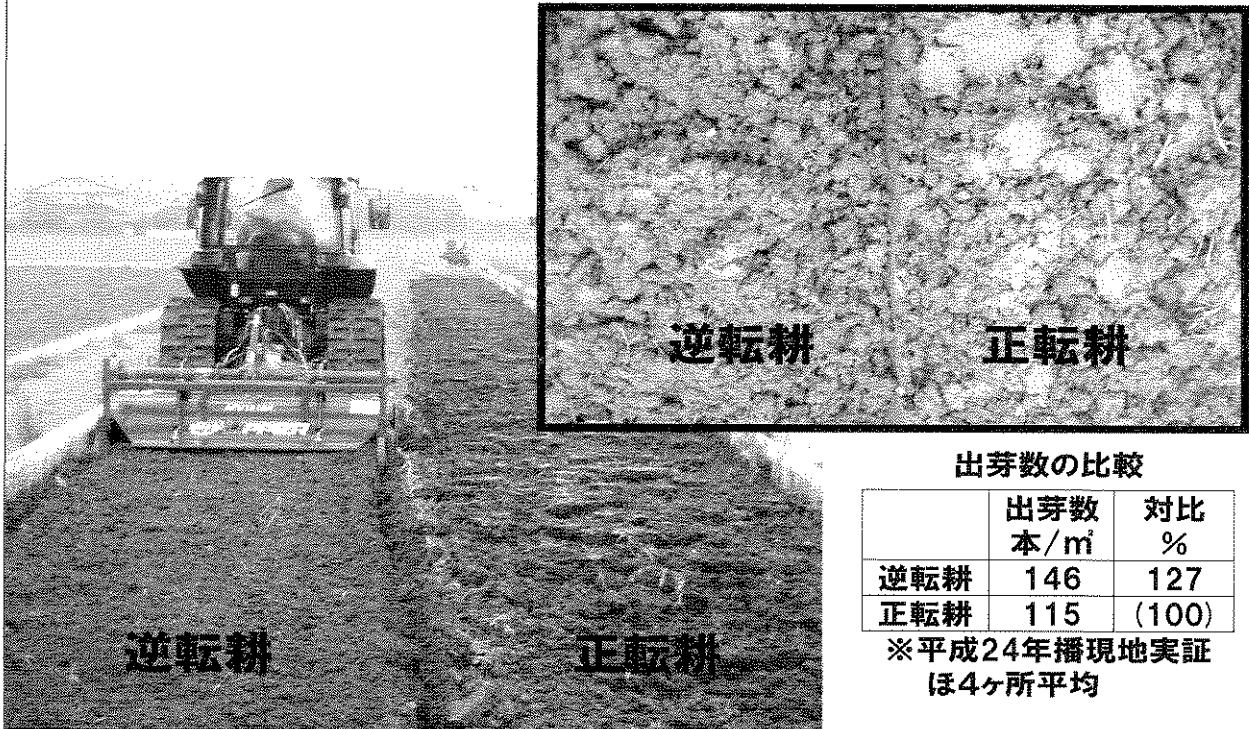


寒冷地2年3作水田輪作地帯技術マニュアルより

逆転耕畦立てドリル播種の様子



逆転耕と正転耕の碎土性の比較

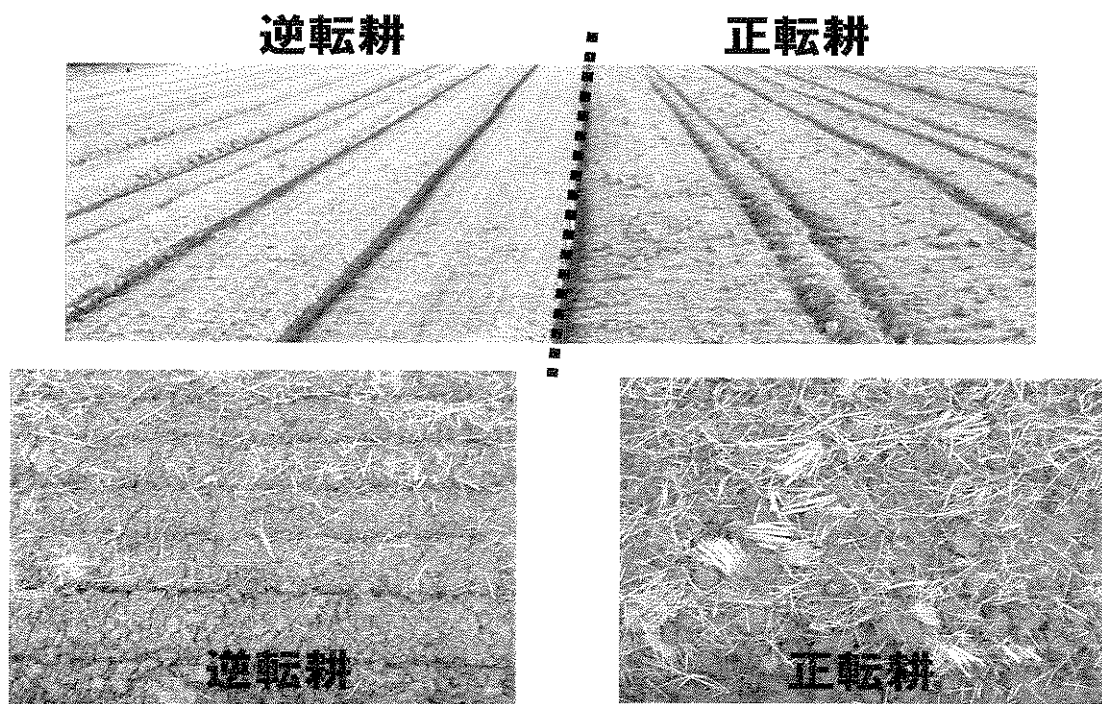


出芽数の比較

	出芽数 本/m	対比 %
逆転耕	146	127
正転耕	115	(100)

※平成24年播現地実証
ほ4ヶ所平均

逆転耕と正転耕の鋤き込み精度の比較



逆転耕

正転耕

逆転耕

正転耕

逆転耕と正転耕の畦の高さの比較



畦の高さの比較

	畦の高さcm
逆転耕	16.3
正転耕	11.5

※平成24年播現地
実証ほ4ヶ所平均

逆転耕の方が5cm程度高くなる。

逆転耕畦立てドリル播栽培の留意点

- ①作業機のセッティングがまずいと失敗する。
- ②播種作業速度が遅い(正転の2/3程度)。
- ③トラクタに負荷がかかるので、燃費が劣る。
- ④砂質土や礫(小石)があるほ場では爪がちびやすい。

②～③はプラソイラ等による事前処理で改善可能と考えられる。
PTOは1を基本とする。

※導入に当たっては、これらの短所も考慮する必要がある。

逆転耕作時のセッティングのポイント

※まずロータリをきちんとセットしてから播種機をセットすること！

(1) ロータリの取付け

耕うん作業時に取付けヒッチ①が地面に垂直になるようトップリンク②を調整する。



(2) 耕深の調整(オートは切)

尾輪③と高さ調整ハンドル④で耕深12cm程度となるよう調整する。



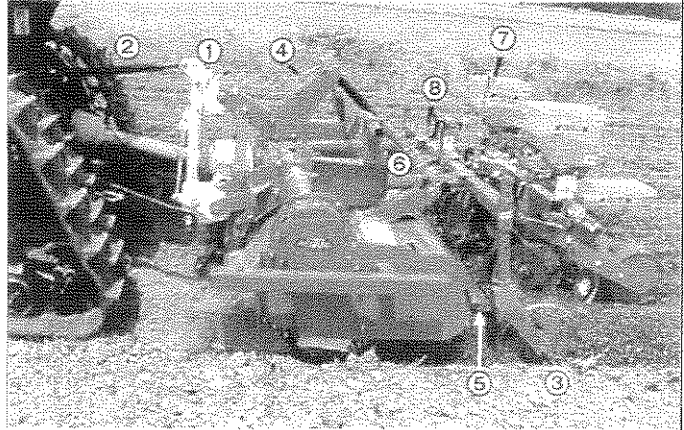
(3) 畦の高さの調整

均平板⑤の位置が所定の畦の高さとなるようピン⑥を調整する。



(4) 播種機の調整

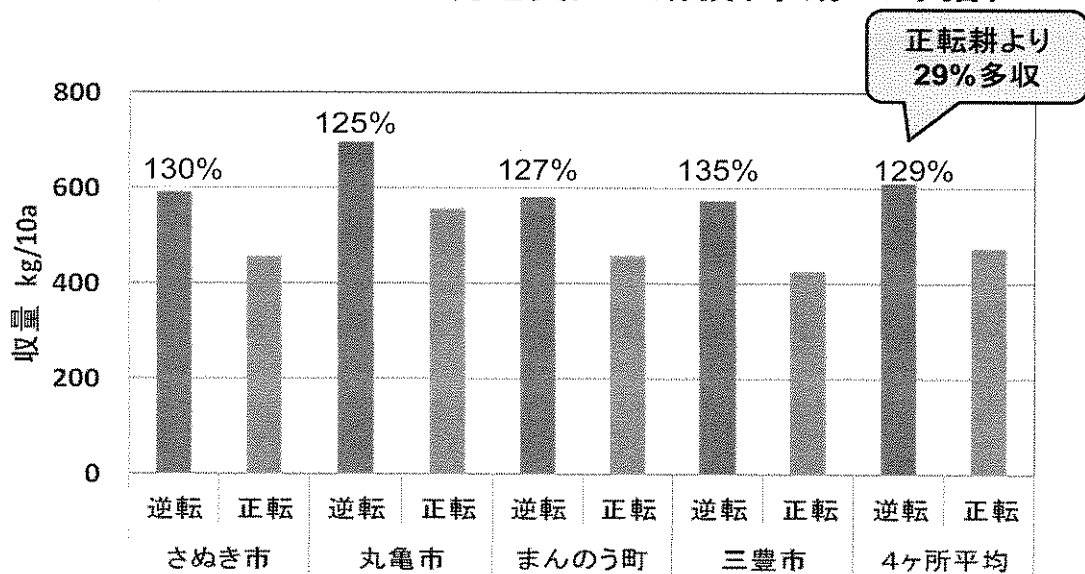
播種機が地面に対して上下するよう高さハンドル⑦を調整し、播種深度が3cm程度となるよう深さハンドル⑧を調整する。



寒冷地2年3作水田輪作地帯技術マニュアルより

逆転耕畦立てドリル播栽培の収量の正転耕との比較

—普及センターによる現地実証ほ成績(平成24年播)—



雑草防除

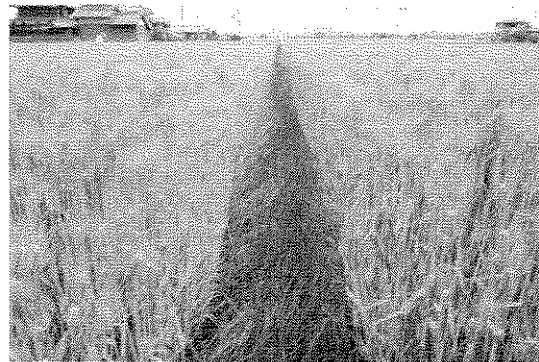
除草剤抵抗性スズメノテツポウ

トレファノサイド、ハーモニーが効かない。



初期除草剤はボクサー等が有効。

ハーモニーに替わるものがまだない。



ノミノフスマ

ボクサーを使用したほ地で増えつつある。

蔓延するほ地では他の除草剤への変更が必要。



カラスムギ

激発するほ場が増えつつある。
対策としては、湛水処理しかないのが現状。
湛水できないほ地での対策が今後の課題。



平成24年播き香川県麦作拡大コンクール実施要領

第1 目的

麦類は本県における土地利用型作物の基幹作物であり、実需者から生産を強く求められていることから、需要に応じた速やかな作付拡大が必要である。

そこで、平成24年播き麦について、香川県麦作拡大コンクールを開催し、麦類の作付面積の拡大や単収・品質向上により、本県を麦類の産地として再度復興するとともに、本県土地利用型農業の発展に寄与した担い手を表彰し、その成績を広く紹介することによって、本県麦作の更なる発展を図るものとする。

第2 主催等

主催：香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会

後援：香川県農業再生協議会

第3 参加資格

- (1) 香川県内で小麦「さぬきの夢2009」又ははだか麦「イチバンボシ」の生産を行う者であること。
- (2) 農業者戸別所得補償制度に加入している経営体であること。
- (3) 麦の作付面積（農業共済引受面積）が24年産よりも拡大していること。
- (4) 地域の平均以上の単収生産を確保していること。
- (5) 生産振興方針に基づく麦種・品種を作付していること。

第4 参加者の区分

参加者は次の3部に区分し、審査することとする。

- (1) 個人の部
- (2) 生産集団の部
- (3) 1支店1農場の部（香川県農業協同組合が支援する1支店1農場構想に基づく組織経営体）

なお、1戸1法人は個人とし、(3)に含まれない法人及び団体は生産集団とする。

第5 参加者の推薦及び申し込み

香川県農業協同組合の各営農センターおよび香川豊南農業協同組合は、地域の優れた生産者について所轄地域農業改良普及センターと協議のうえ、推薦書により申し込む。

第6 審査

- (1) 入賞者の決定は、審査委員会に諮り、公正かつ適正に行うこととする。
- (2) 審査委員会は香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会をもって構成する。
- (3) 審査は別に定めた審査基準に基づいて実施する。

第7 表彰

表彰は、審査委員会の決定に従い、次のとおりとする。

- (1) 個人の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点以内） 特別賞（2点以内）
- (2) 生産集団の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点以内） 特別賞（2点以内）
- (3) 1支店1農場の部 最優秀賞（1点） 優秀賞（3点以内） 特別賞（2点以内）

上記（1）個人の部、（2）生産集団の部、（3）1支店1農場の部について、香川県農業協同組合代表理事理事長名で授与する。

あわせて、（1）個人の部及び（2）生産集団の部のうち、最上位者に香川県農政水産部長賞を、（3）1支店1農場の部のうち、最上位者に香川県農業協同組合中央会長賞をそれぞれ授与する。

- (4) 特別賞 審査委員会の決定に基づき、表彰することができることとする。

※なお、各賞は表彰状の交付と併せ、副賞を授与することができるものとする。

第8 日程

- (1) 推薦期限 平成25年2月11日
- (2) 1次審査 平成25年4月上旬
- (3) 現地調査 平成25年4月下旬（1次審査の上位者について調査を行う）
- (4) 本審査 平成25年7月下旬
- (5) 表彰 平成25年度麦づくり推進研修会（平成25年9月上旬頃）で行う

第9 事務局

事務局は香川県農業協同組合営農部農産課に置く。

第10 その他

その他必要なことは、審査委員会において定めることとする。

審査基準

(1) 1次審査

作付面積および面積拡大を重点に審査を行い、部門ごとに上位者を選定する。

(2) 本審査

部門ごとの1次審査上位者について現地確認を行い、下記審査項目による獲得点数上位者から最優秀賞、優秀賞を決定する。

なお、詳細な評価方法、配点方法、入賞者の決定等は、審査委員会で行うこととする。

審査項目

項目	内容
作付面積	調書による
面積拡大	調書による
出荷量	10a あたり単収
品質	等級 (1等比率)
栽培管理	(細目) 排水管理・生育の均一性・ 雑草防除・病虫害防除・総合
その他	農地の集積比率 麦種別作付比率など

